

---

# 住信SBIネット銀行のAPIへの取組み

---



住信SBIネット銀行

2018/6/13

# これまで14のAPI接続事例を公表

各国動向



9月

2月



10月

1月



12月

6月

2015

2016

2017

2018

8月

3月

8月

12月

2, 3, 4月

9月, 11月

2, 3月

5月

API開放  
を公表



弥生会計ラインアップ

2018年6月1日現在 各国公表情報および当社プレスリリース各社事例より作成

©SBI Sumishin Net Bank, Ltd.

# 本日のアジェンダ

## API取組事例

## API開放戦略

## オープンAPIと今後

# ① 既存技術の課題解決

## ■ PFMサービス

- マネーフォワードシリーズ（2016年3月25日）
- 家計簿Zaim（2018年2月20日）
- MoneyTree（2018年3月19日）



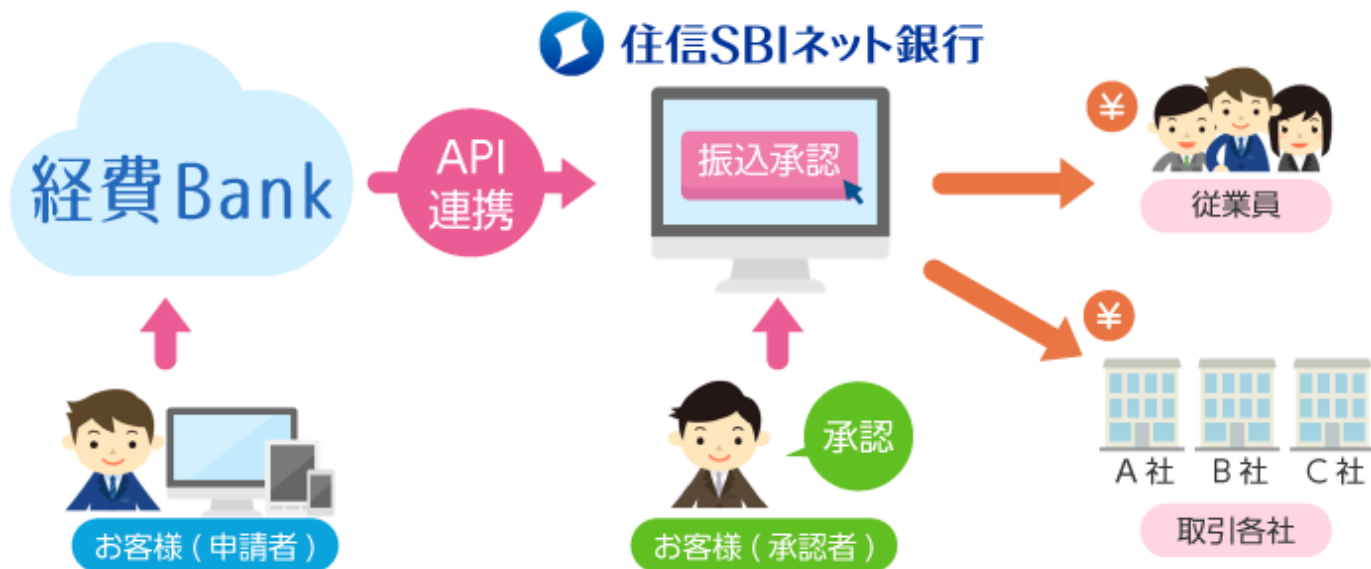
## ■ クラウド会計サービス

- MFクラウド（2016年3月25日）
- クラウド会計freee（2016年8月16日）
- 弥生会計ラインアップ（2018年3月30日）



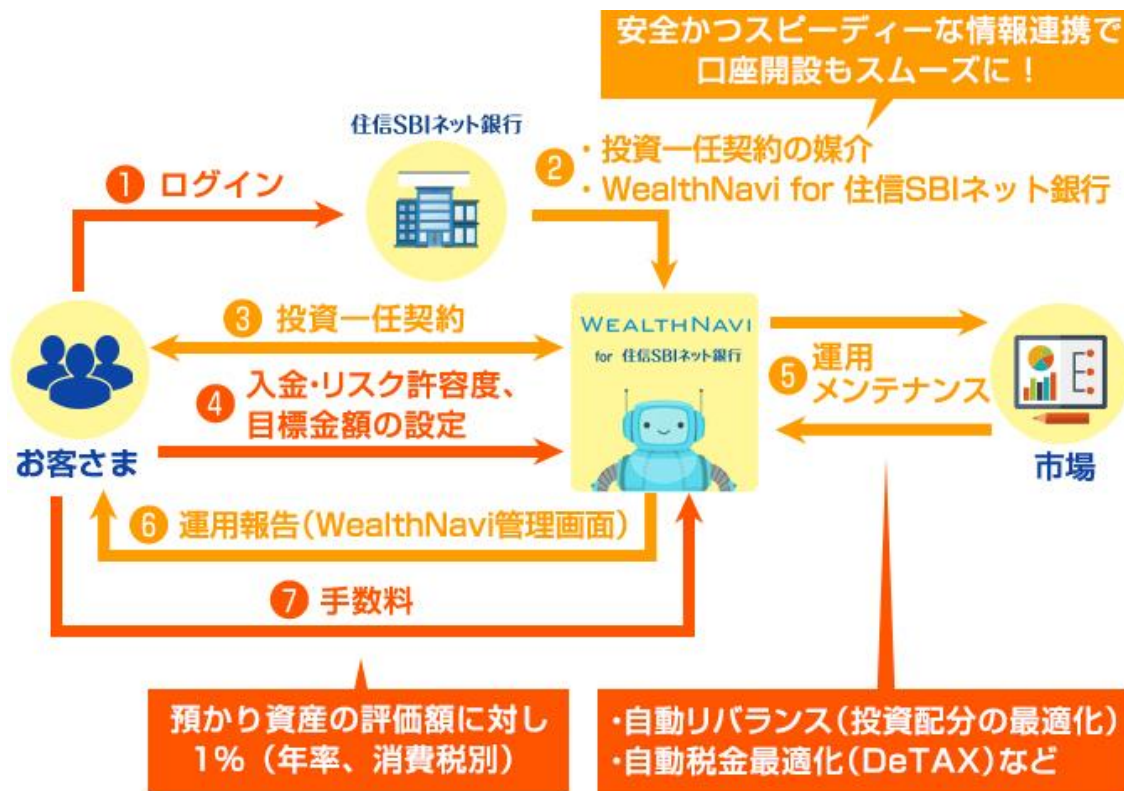
## ②法人振込業務の円滑化

- MFクラウド経費（2017年3月31日）
- クラウド会計freee（2017年4月13日）
- クラウド型経費精算システム「経費Bank」（2017年9月27日）



### ③証券口座開設における本人確認業務連係

- 「WealthNavi for 住信SBIネット銀行」(2017年2月28日)
  - 投資一任契約時の**本人確認業務負荷**を**API**を活用して大幅に軽減。(国内初)



## ④ 新たなユーザー体験の創出

- 更新系API（目的別口座間の振替）提供
  - 自動貯金サービス「finbee」（2016年12月26日）
  - 自動貯金サービス「しらたま」（2017年9月19日）



- 更新系API（即時口座振替）提供
  - 少額自動投資サービス「マメタス」リニューアル（2018年1月6日）



## ⑤ キャッシュレス

- 更新系API（即時口座振替）提供
  - Pay ID（2018年5月25日）





# 各API接続におけるメリットの整理

|   | 接続先  | API種別           | メリット  |
|---|--|-----------------|---|
| 1 | マネーフォワード<br>freee<br>ネストエッグ<br>Zaim<br>MoneyTree<br>弥生会計ラインアップ | 残高照会<br>入出金明細照会 | 情報精度の向上<br>顧客情報管理（セキュリティ）向上<br>サーバー資源保護<br>（副次的に）金融犯罪対策向上 |
| 2 | Alexa  | 為替レート照会<br>残高照会 | 新たなユーザー体験の創出  |
| 3 | ウェルスナビ   | 本人確認済フラグ        | 口座開設簡略化<br>郵送コスト削減  |
| 4 | マネーフォワード<br>freee<br>SBI ビジネスソリューションズ                          | 振込機能連携          | 振込手続簡略化<br>振込事務ミス軽減                                       |
| 5 | ネストエッグ<br>マネーフォワード   | 目的別口座           | 新たなユーザー体験の創出  |
| 6 | ウェルスナビ   | リアルタイム口座振替      | 新たなユーザー体験の創出  |
| 7 | PAY  | リアルタイム口座振替      | 決済手段の多様化  |

# 本日のアジェンダ

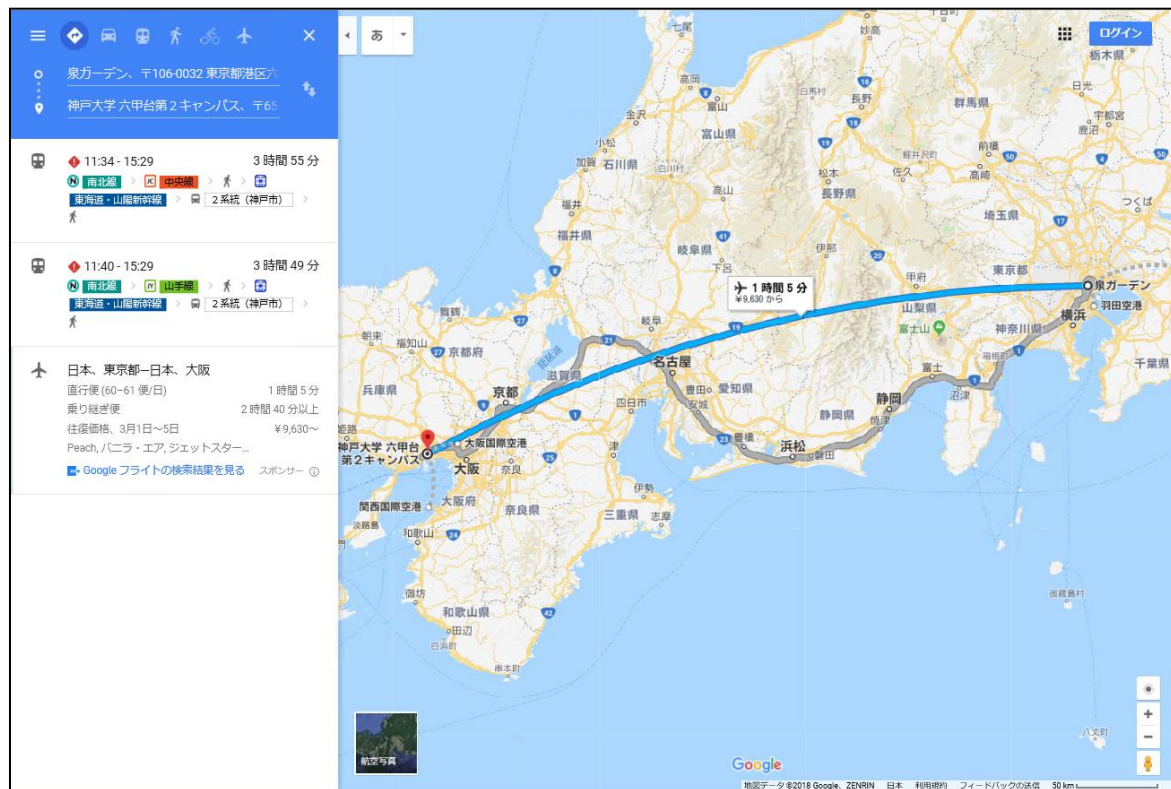
API取組事例

**API開放戦略**

オープンAPIと今後

# サービス革新は業界内に閉じるとは限らない

Ex) 「移動」は、路線検索が前提ではなくなった



出所 : Yahoo!路線検索、google map よりSSNB作成

# FinTechは金融にイノベーションをまきおこす

## 金融審議会・決済業務等の高度化に関するワーキング・グループ報告の概要

環境  
変化

- 金融・IT融合（FinTechの登場）によるイノベーション
- 先進的な決済サービスに対するニーズの高まり

### 決済高度化に向けた戦略的取組み

#### 1. 金融・IT融合に対応したイノベーション

- 決済サービスや決済に関連する銀行業務の革新。
  - 「オープン・イノベーション」を推進し、銀行のみならず多様なプレーヤーが競争的にイノベーションを進められるようにすることが重要。  
金融・ITイノベーションに向けた新たな取組み
    - ・複数の金融機関が参加する、携帯電話番号を利用した送金サービスの提供を検討
    - ・ブロックチェーン技術の活用（オープンAPIのあり方）を銀行界において検討
- 「横断的法制」の構築に向けた検討
- ・様々な新しいサービスの登場可能性も踏まえ、業務横断的な法体系の構築を検討
- ITの進展に対応した決済関連サービスの提供を容易化
- ・電子端末型アプリの登場に対応し、インターネットによる表示義務の履行を拡大
  - ・コンビニやスーパーのレジでのキャッシュアウトサービスの提供を可能に 等

#### 2. 企業の成長を支える決済サービスの高度化

- 企業の競争力強化の観点から、キャッシュ・マネジメントの高度化と電子記録債権の利便性向上等を図る。  
邦銀、特に主要行のキャッシュ・マネジメント・サービスの高度化  
日本企業のキャッシュ・マネジメント高度化に向けた環境整備
    - ・金融子会社（トレジャリー・センター）の活用等に対応した法適用の見直し
    - ・クロスボーダーの財務管理に係る「外為報告義務」の合理化
- 電子記録債権の利便性向上等
- ・地方自治体における電子記録債権の活用
  - ・資金調達円滑化のため、記録機関にかかわらず、企業が自社の取引先銀行で債権の割引を受けられるようにする方策の検討

#### 3. 決済インフラ改革（「5つの改革」）

- 全銀システム等について、利用者利便と国際競争力強化の観点から改革。決済インフラの抜本的機能強化
    - 1 2020年までに、企業間送金をXML電文に全面移行（2018年より新システム稼働）
- 国内外一体の決済環境の実現
- 2 送金フォーマット項目の国際標準化（2016年度中を目標に論点を整理）
  - 3 早ければ2016年度中に、居住者・非居住者間の取扱い区分を撤廃（国内円送金）
  - 4 2018年を目標に、新たに「ロー・バリュー国際送金」の提供を目指す
  - 5 大口送金の利便性向上（100億円以上の送金の容易化）

#### 4. 仮想通貨への対応

- 仮想通貨について、G7首脳会議の合意等も踏まえ、マネロン・テロ資金供与対策及び利用者保護のルールを整備。
  - ・仮想通貨と法定通貨の交換所について、登録制を導入し、マネロン・テロ資金供与規制の対象に追加。併せて、利用者保護のための規制を導入。

決済高度化に向けて戦略的取組みを官民で推進していくための体制の整備

その際には、決済システムの安定性と情報セキュリティへの対応にも留意

# 「イノベーション」とは

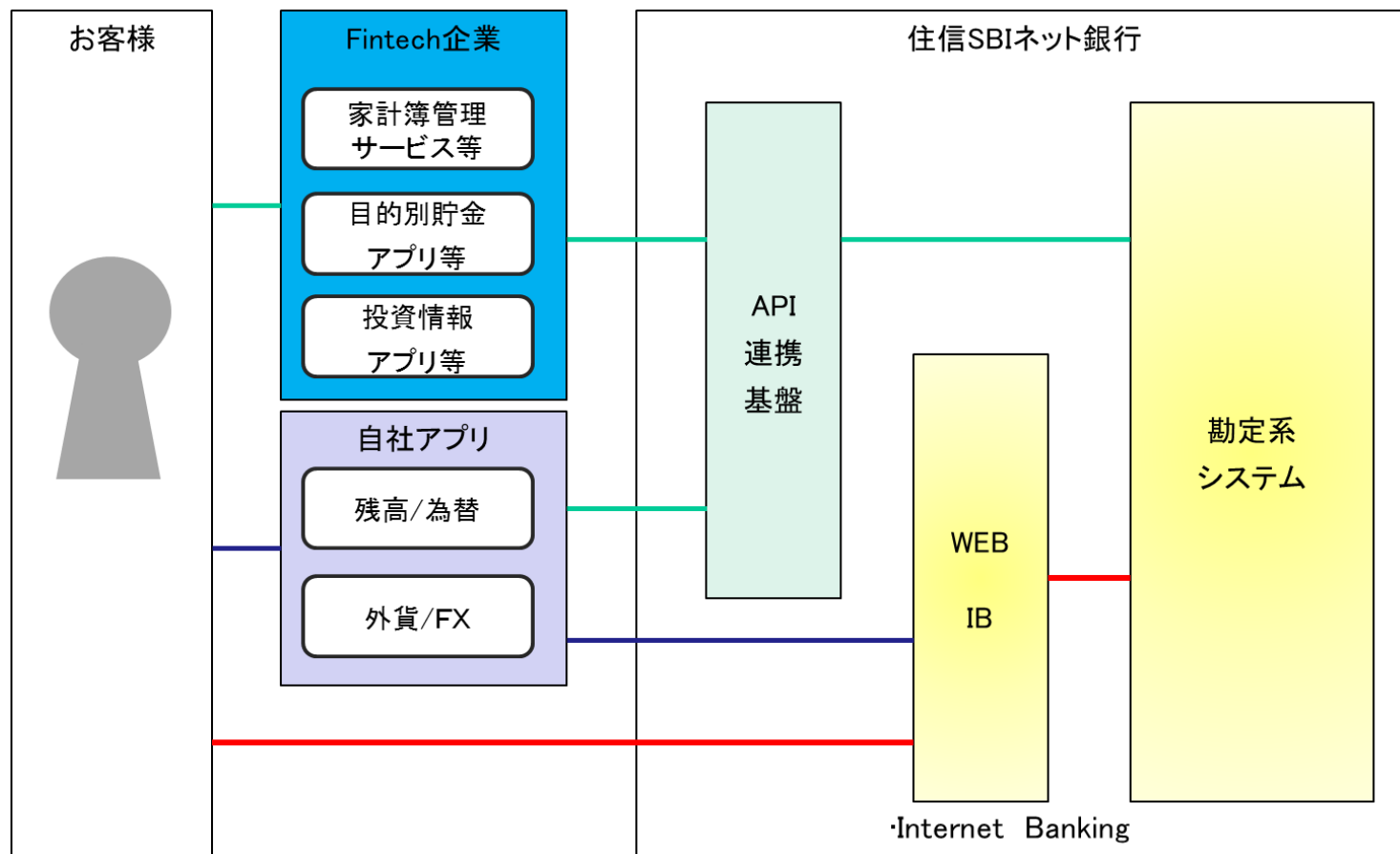
## イノベーションを定義したと言われる

ヨーゼフ・シュンペーター  
(1883年～1950年)



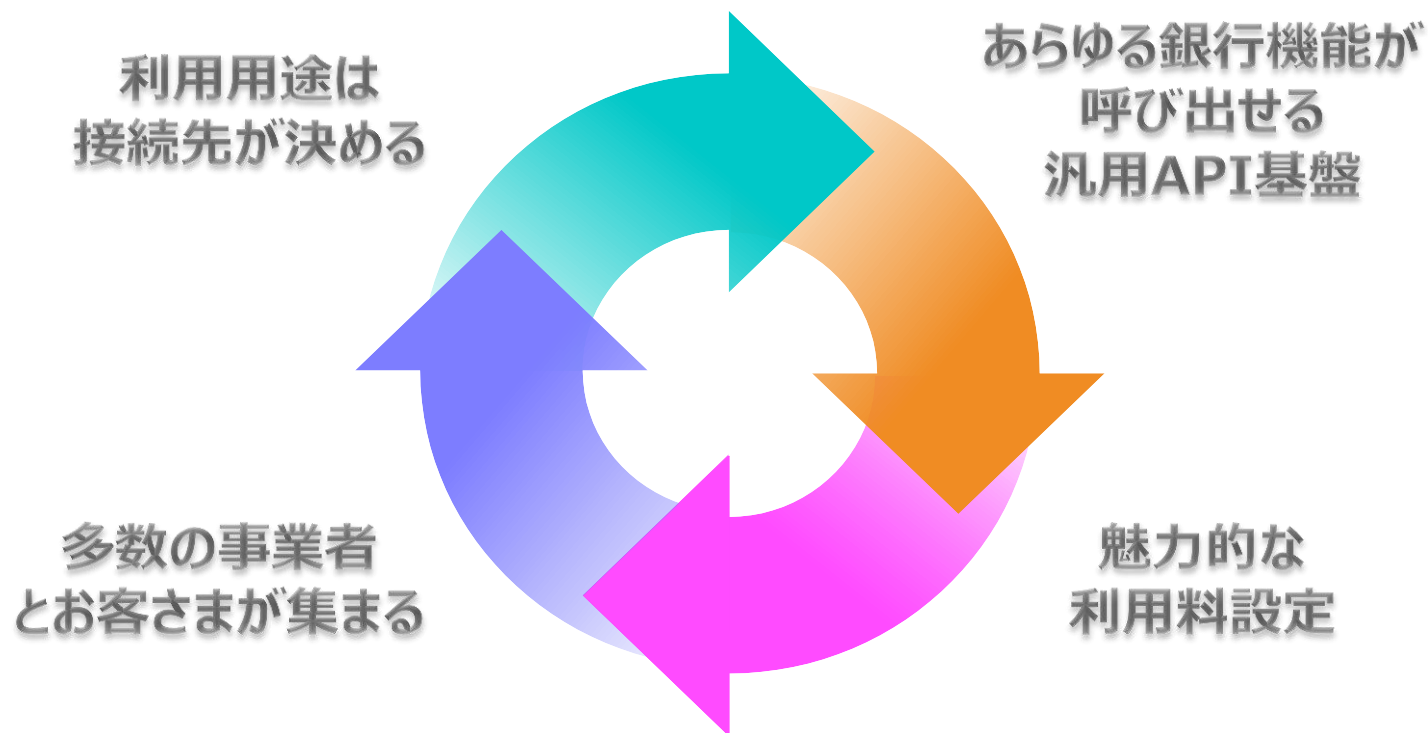
# 「 new combination 」

# 汎用的なAPI基盤が競争力の源泉になっている



# オープンAPI戦略

- 本格的なAPI活用局面では、接続先が用途を決める。



# 本日のアジェンダ

API取組事例

API開放戦略

**オープンAPIと今後**



# キャッシュレスチャレンジ



# ケーススタディ“冷蔵庫が「たまご」を発注する時代”



# ペイメントレスの兆候

- キャッシュレスは過程に過ぎない。
- 「移動したい」「モノが欲しい」「コトが体験したい」わけであって「お金を払いたい」わけでは無い。

IoT対応機器は、2020年、  
世界で250億台に。  
(日本経済新聞2018/5/21)



ex) API×IoT決済に求められる手数料体系とは

- 組み合わせによるAPI活用が新たなユーザー体験の創出へ

住信SBIネット銀行は、今後も、お客さまの利便性を高めることを目的に、電子決済等代行業者とのAPI接続をはじめとした各種サービス企画を通じて、FinTech分野におけるイノベーションを積極的に進めてまいります。



**住信SBIネット銀行**